

I 私学振興共済事業団助成プロジェクト

- ① プロジェクト研究報告書「持続可能な地域社会形成と公共政策の変容と展開：愛知県日進市における政策分析をとおして」を 2012 年 5 月に作成した。
担当：森下英治（愛知学院大学総合政策学部教授）
- ② 2012 年 2 月に実施した日進市民福祉コミュニティ市民意識調査の報告書を 2012 年 10 月に取りまとめた。
担当：村田尚生（愛知学院大学総合政策学部准教授）

II コミュニティ論研究会

第 1 回 2012 年 5 月 30 日

報告者：杉山知子（愛知学院大学総合政策学部准教授）
テーマ：「グローバル化時代の真実委員会の広がり：変遷と今後の課題」
概要：世界各国でおきた内戦や紛争での人権侵害や虐殺の実態を解明し、加害者を糾弾するのではなく、和解へ向けた取り組みが真実委員会を中心に行われていることが報告された。その後、違う価値観をどのように共生させていくのか、こうした取り組みがコミュニティ再生にどのような効果があるのかなどが議論された。

第 2 回 2012 年 9 月 19 日

報告者：稲垣充廣（愛知学院大学総合政策学部教授）
テーマ：「情報化とコミュニティ」
概要：リサーチパークやサイエンスパークなど国策としての情報産業の集積による新たなコミュニティ形成という側面と、情報化により SNS などでのコミュニティの出現という 2 つの側面から話題提供がなされた。これを受け、情報化により現実のコミュニティを深化する効果はあるものの、信頼関係のある新しいコミュニティを創出するには至らないのではないかと議論が行われた。

第 3 回 2012 年 12 月 5 日

報告者：吉田大（物々交換局代表、弁理士）
テーマ：「多層的コミュニティに対する穀物本位制流域通貨のアプローチ」
概要：米本位制の地域通貨である「おむすび通貨」がどのようにして生まれたのか、またその仕組みについて紹介がなされた。経済がグローバル化する中で、地域の自治意識や自然への畏敬が失われていること、「おむすび通貨」が使うものの関係性を回復し、生命世界と接続す

るのに役立つという期待が示された。

第 4 回 2013 年 1 月 30 日

報告者：二宮克美（愛知学院大学総合政策学部教授）
杉山佳菜子（愛知学院大学大学院総合政策研究科研究員）
テーマ：「入学生および卒業生に対する調査からみた本大学の教育－4 年間の継続調査から提言できること－」
概要：中央教育審議会答申を契機として始まった入学生および卒業生に対するアンケート調査結果が報告された。このアンケートでは、入学生に対し、大学に入学した理由や目的、そして卒業生に対しては「学士力」がどの程度身に付いたか、大学生生活の満足度などが調査されている。入学生は免許や資格を望んでいること、また、卒業生については満足度が高い学生は「学士力」の自己評価が高いことなどが指摘された。さらに、卒業生の満足度は全般に良好であるが、低下傾向にある。こうした報告を受け、今後の学部教育をどうすべきかが議論された。

III シンポジウム

2012 年 9 月 22 日にシンポジウムを開催した。

主催：愛知学院大学総合政策学会

共催：愛知学院大学政策科学研究所

テーマ：「震災と私たち－安全という神話にどう向き合う－」

IV フォーラム

2013 年 3 月 9 日にフォーラムを開催した。

主催：愛知学院大学政策科学研究所

後援：日進市

協力：日進市社会福祉協議会

テーマ：「コミュニティ論フォーラム 2013－持続可能な地域共生コミュニティの創出をめざして－」

V ドイツ都市視察

2013 年 3 月 18 日～3 月 23 日に、ドイツのフリードリヒスハーフェン、ライプツヒ、イエーナにおいて、市役所、赤十字、キリスト教福祉団体などで訪問調査を行った。

VI 政策科学研究所所報

政策科学研究所所報第 4 号を 2013 年 3 月 31 日に発行した。

VII 所員会議

第1回 2012年5月16日

第2回 2012年10月24日

第3回 2012年12月19日

VIII 運営委員会

第1回 2012年5月9日

第2回 2012年5月23日

第3回 2012年10月17日

第4回 2012年11月21日

第5回 2012年12月12日

第6回 2013年2月28日